

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	人間ドック健康診断事業			事業コード	0225
所属コード	043500	課等名	健康保険課	係名	給付係
課長名	高橋 邦夫	担当者名	細田 光信	内線番号	3113
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード	1
	施策	暮らしを支える制度の充実と自立支援	コード	5
	基本事業	国保制度の健全運営	コード	2
予算費目名	国民健康保険費特別会計 8 款 1 項 2 目人間ドック健康診断事業(001-002)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	年度
根拠法令等	国民健康保険法第 82 条及び盛岡市国民健康保険条例第 7 条			

(2) 事務事業の概要

盛岡市国保加入者の健康保持増進を目的とし、契約医療機関で総合健康診断を行う時の費用の一部を助成する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

国保加入者の健康保持及び増進を目的として、昭和 59 年 7 月 9 日から盛岡市国民健康保険総合健康診断実施要綱を定め実施している。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

次の要因により受診者は増加傾向にある。

- ・平成 18 年に助成額を増額した。
- ・健康医療から治療から予防重視の傾向に変化している。
- ・一部の医療機関で受診費用額を引き下げて対応している。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が、何が対象か）

盛岡市国民健康保険加入者

*人間ドック受診者に対して、申請により受診費用の一部を助成する。

男性：20,000 円 女性：24,000 円

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 盛岡市国民健康保険加入者	人	66,721	66,775	66,775	65,589	66,775
B						
C						

（3）24 年度に実施した主な活動・手順

平成 24 年度当初納税通知書発送時、本事業を含む各給付事業周知パンフレットを同封する。

- ・受診できる医療機関との契約事務等
- ・受診者は医療機関に予約後、盛岡市国保窓口にて受診券の交付申請をする
- ・市は受診券の交付
- ・受診者は人間ドック受診時に受診券を提出することにより助成額が控除された額を支払う
- ・市は医療機関からの実績請求に基づき助成額を支払う
- ・21 年度から、人間ドック受診希望者で特定検診の対象となる人は両健診と一緒に受診することになった

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 人間ドック指定医療機関数	カ所	10	10	10	10	10
B 人間ドック受診券交付申請者数	人	1,364	1,466	1,466	1,562	1,600
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

受診料の一部を助成することにより、人間ドックを受診しやすくする。

受診により自分の健康状態を把握することで病気の予防・早期発見・早期治療に結びつき、医療費の抑制も図られる。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 人間ドック受診者数	■上げる □下げる □維持	人	1,364	1,466	1,466	1,562	1,600
B 人間ドック年間助成金額	■上げる □下げる □維持	千円	29,280	30,380	30,380	33,504	37,600
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	0	0	0	0
	⑤その他(国保特別会計)	千円	29,280	30,380	30,380	33,504
	A 小計 ①～⑤	千円	29,280	30,380	30,380	33,504
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	60	60	60	60
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	240	240	240	240
計	トータルコスト A+B	千円	29,520	30,620	30,620	33,744
備考						

3 事務事業の評価（See）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

病気の予防, 早期発見, 早期治療で医療費の抑制につながり, 国保制度が健全に運営され, 目的に結びついている。

② 市の関与の妥当性

病気の予防, 早期発見, 早期治療で医療費の抑制につながり, 国保制度が健全に運営されるため, 市の関与は妥当である。

③ 対象の妥当性

病気の予防, 早期発見, 早期治療のために有効であるため, 被保険者全員を対象とする現状は妥当である。

④ 廃止・休止の影響

廃止・休止すれば個人負担の増加に伴う受診者の減少により、病気の発見が遅れるなどして、結果、医療費の増加に繋がる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

医療機関に人間ドック助成制度のポスター等を掲示するなど協力依頼する。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

盛岡市国保加入者を対象にしており、公平・公正である。

(4) 効率性評価

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

このまま広報活動を継続し、制度を周知してもらい人間ドックの助成制度を利用してもらう。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

岩手医科大学の矢巾町移転に伴い、委託する医療機関のひとつが市外となる。従来から岩手医科大学で人間ドックを受診している市民が引き続き岩手医科大学での人間ドック受診を希望することが想定されることから、移転後の取り扱いについて、大学側と協議することとする。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

受診者が増加傾向にあり、本人が健康を確認することで、病気の早期発見・早期治療に効果があった。

また、特定健診と連携して実施することにより、実施率にカウントでき、特定健診の受診率向上にも効果があった。

引き続き国保加入者への周知に努めるとともに、今後は、訪問保健指導事業などと連携し、病気の早期発見や重症化の予防に繋げられるよう取り組む必要がある。